

## ロシア極東と中国東北部の経済関係：現状と課題

### 1. はじめに

私は、20世紀から21世紀にかけて、「極東・ザバイカル地域間協会」の国際関係担当事務局次長として、ロシア極東と北東アジアの国境地域間協力の発展に取り組んできた。この活動を通して、中国東北部との協力を含め、ロシア極東がどんな問題に直面してきたか、地域間相互関係の在り方や方法はどうか変化したか、を知るようになった。このレポートは、時期ごとに整理した上で、ロシア極東の地域間相互関係の変化や地域間協力の問題を検討する。

### 2. 第1期：ロシアと中国の地域間関係の形成

1990年代において、バーター貿易が拡大した。極東から中国へ機械・設備・無機肥料・丸太が輸出され、中国から極東へ食料品と消費財が輸入された。1990年代初頭のロシアでは、貿易が自由化され、計画経済から市場経済への移行が行われた。このことは、ロシア極東の国際協力関係に関する規制の緩和につながった。

1990年代末になると、1970～1980年代に日ソ間で行われていた沿岸貿易が中国にも普及し、ロシア極東地域と中国東北部の国境交易が行われるようになった<sup>1</sup>。中国政府は、極東から原材料を輸入する国境地域や企業に対して優遇措置をとった。地方自治体はこの優遇の恩恵を享受することができたおかげで、中国の国境地域にある集落や都市は変容した。一方で、ロシア側では、このような国境地域の優遇措置はとられず、ロシアの国境インフラの開発は、中国に遅れをとるようになった。中国の中小企業は貿易やサービスといった国境ビジネスを行った。一方で、ロシア側は、貨物と乗客の輸送を行っていた。結果として、ロシアの国境の集落にはお金が残らなかった（[2]）。

ロシア極東の企業は、中国と取引を行うようになったが、そのパートナーの言葉・法律・歴史・文化を知らなかった。極東の企業家に実践の中でそれらを教え込んだのは、中国の取引相手であった。中国企業は、ビジネスの主導権を握る方法、パートナーを廃業に追い込むやり口、取引相手を自身の利益に従わせるやり方について長年に培ってきた経験をロシア人に示したのである（[3]）。極東地域の指導者たちは、中国東北部とのビジネスの発展は期待した成果をもたらしていないと確信し、中国の取引相手が提案する方法における地域間協力を控えるようになった。その結果、バーター貿易が終了した。

<sup>1</sup> [1]。（訳注）国境（沿岸）貿易は、国境地域に位置する企業の間で行われる。取引される商品は、国境付近の地域で生産される財・サービスである。国境貿易の売り上げは、地方政府の財政に入り、地域産業の振興に利用される。

1990年代末になると、綏芬河とグロデコヴォの間で、満州里とザバイカルスクとの間で、黒河とブラゴヴェシチェンスクとの間において「国境商業経済コンプレクス」の設立が始まった。ただし、このような建設は中国側では実施されたが、ロシア側では失敗に終わったのである。その理由の1つは、中国からロシアに関税なしで輸入品を通過させる中ロ国境検問所を民間投資によって設置しようと産業界が試みたことにあった。国境地域におけるこのような違法行為の抑止は、結果的に、国境貿易に伴う運輸やサービスにロシアの中小企業が従事することを望まない状況を生み出した。

1998年には、国境協力に関するロシアと中国の地域調整協議会が設立された。この協議会の課題は、極東・ザバイカル地域と中国東北部の地方政府同士の間に関係を構築し、パートナーとなりうる可能性を示すこと、地域間連携の発展の阻害要因を明らかにし、その解決法を探ることにある。この協議会の枠組みで、18回にわたり会合が行われた。協議会の構成メンバーは、極東および中国の地域を訪問し、国境貿易コンプレクスの構築の経験や、国境検問所の状況、地域間協力の可能性を調査した。協議会は、ロシアと中国の地域の代表者たちが交流するための「学校」になったのである。

### 3. 第2期：ロシア極東と中国東北部の地域間相互関係

20世紀最初の10年代において、バーター貿易ではなく、ロシアから中国へ原材料・木材・石炭・海産物が輸出され、中国からロシアへ機械・設備・軽工業製品・食料品が輸入されるようになった。

ロシアと中国東北部の国境地域において開発レベルの格差が拡大したため、発展を調整する試みが実施されるようになった。2008年に、ロシアのメドベージェフ大統領と中国の胡錦濤国家主席は、「2009年から2018年までのロシア極東と中国東北部の地域間協力プログラム」に調印した。プログラムは、中国側約100件、ロシア側57件のプロジェクトを含むものであった。

ロシアは、資源の一次加工を行う企業を国境地域に設立することを試みたが、同じような産業が中国側にあるという状況に直面した。中国東北部の国境沿いには木材加工工場があった。また、家具や一般向けの完成品を販売する企業群が国境地域に立地しており、ロシア企業はそこから商品を購入した。中国と取引を行った主な極東地域は、沿海地方、サハリン州、ハバロフスク地方である。2007～2008年にロシア政府は丸太の関税率を引き上げ、これによって日本向けの丸太輸出が激減したが、中国企業は政府支援を受け、丸太輸入を継続した（[4]）。

20世紀初頭において、ロシア極東への中国投資はほぼ存在しなかった。00年代末に明らかになったのは、ロシア極東と中国東北部が投資誘致の大部分において競争関係にあるということであった。中国は国境地域で自国の利益を保護し、それを放棄するつもりはなかった。2012年に、ロシアの地域経済に、中国は1億1900万ドルの投資を行った。この際、極東に投下された外国投資総額に占める中国のシェアは0.9%であった。

#### 4. 第3期：2010年代における地域間協力

新しい段階の地域間協力は、モスクワの大企業が極東に進出し、中国東北部の貿易を横取りしたこと、また大規模プロジェクトを実施したことに関係している。2013年に、ロシアから中国に総額2500億ドル・3.6億トンの石油を供給する契約が締結された。2014年5月に、両国は4000億ドルのガス供給契約を締結した。2017年には、「中国石油天然気」社は、「シベリアの力」ガスパイプライン建設に30億ドルを投資した。中ロ投資協力政府間委員会は、総額200億ドルにおよぶ70件の共同投資プロジェクトのリストを承認した。2016年におけるシルクロード基金による「シブール・ホールディング」の株式10%の取得をはじめとして、2015～2017年の期間に、多くのプロジェクトが承認された。シルクロード基金は「ヤマルLNG」の株式9.9%も10億ドルで取得している。

21世紀初頭以来、ロシア政府は、極東の社会経済的発展を加速させ、中央地域への人口流出や社会分野の発展テンポの遅れなどの極東における負の傾向を逆転させる試みをたびたび実施している。1990年代初頭から2015年まで、極東のローカルビジネスは、「伐採、捕獲、採掘、販売」のスキームで活動してきた。彼らには製品の加工のための資金もインセンティブもなかったからである。

2014年に、ロシア政府は、極東地域経済発展の阻害要因の解消に向けて追加的な措置をとり、先行発展区の設置に着手した。この特区では、投資家優遇措置がとられ、公共投資によって通信網が整備された。極東全体で19の先行発展区が設置され、20の自治体に自由貿易港制度が導入された。また、投資プロジェクトの支援体制が構築された。

ロシアは、中国にとっての最大石油輸出国である。輸送インフラの発展や新ターミナルの建設に伴って、極東およびシベリアからアジア太平洋諸国への石油輸出比率が歴史上はじめて石炭輸出における同比率を上回るようになった（石油：51%、石炭：49%）。

輸送インフラの整備は続けられている。アムール川のニジュネレニンスコエと同江市、ブラゴヴェシチェンスクと黒河市の間にかかる鉄道・道路橋が建設され、ザバイカル地方・沿海地方・アムール州をつなぐ穀物回廊が建設された。極東の加工生産を発展させるための前提条件が出来上がった。その証拠に、複数の大規模な工業コンプレックスが操業開始し、キムカノ・スタルスク採鋇選鋇コンビナート、ハバロフスク地方では木材加工工場、アムール州ではガス精製工場の新たな建設が始まった。

中国東北部においても同様のプロセスが進んでいる。2016年に、中国政府は中国東北部の新発展プログラムを採択した。2016年以降、183社の新企業の建設が始まった。このように、両国は、ロシア極東と中国東北部の開発という同様の問題の解決に取り組んできた。

極東では、様々な形態と方法で中ロ間の経済・貿易関係の協力が行われている。中ロ国境の障壁は低められ、輸送インフラが発展し、地域住民同士の観光旅行が拡大し、国境沿いに先進都市がベルト状に出来上がった。21世紀初頭の極東における中ロ経済関係は主として貿易に立脚していた。しかし、その土台は脆く、2014～2016年の出来事が示した通り、価格やさまざまな規制によって、取引量は大きく変動しうるものである。2014年に生じたロシア経済の危機、油価下落、ルーブル安の進展、住民の購買力の縮小は、2015～2016年の

地域間貿易の縮小につながった。ロシア極東を志向する中国側の国境地域の市場からは商品が消えてしまった。

外国直接投資に関していうと、極東に主に投資を行っている地域はオフショア市場（キプロス、バハマ、バミューダ）であり、中国の0.19%を含め、アジア太平洋諸国のシェアはわずか2%に留まる。中国は極東向けの投資をほとんど行っておらず、投資額が最も小さい国の1つである（〔5〕）。

中国の投資家は極東において主に卸売・小売業、外食、丸太の伐採を行っている。中国東北部とロシア極東の投資面における協力の発展は、中国政府の厳しい財政信用政策によって抑制された。中国の政策は、(1) 資源採掘の際には、中国での加工のために原料輸出の権利を取得すること、(2) 中国の技術と設備を利用すること、(3) プロジェクトの支配的な所有権（または実質的なシェア）を確保すること、を基本としている（〔6〕）。

#### 5. 農業・電力取引・木材伐採におけるロシア極東地域と中国東北部の協力

極東では農産物の生産が十分に行われていない。中国市場から長い間分断されてきたため、販売相手を見つけだす必要がある。極東産品を売るための場所を確保するためには、中国市場から他のものを追い出す必要がある。中国企業はこの問題の解決に取り組んでいる。現在、黒龍江省の204社の企業が、6,500台の農機具を使って総計630,000ヘクタールにおよぶ極東の農地を開拓している。彼らは、生産物の生産・輸送から自社倉庫での保管・配送・加工・中国市場での販売までをつなぐ様々な経路を作り上げた。

2018年7月に王文濤・黒龍江省長はユダヤ自治州とハバロフスク地方を訪問し、期限内に納税し、法律や極東のビジネス規範を遵守し、作物の輪作法や環境に優しい生産法の要件を遵守するように中国企業に呼びかけた（〔7〕）。

2014年に、満州里の検問所（鉄道・道路）はロシアから食料品と穀物を輸入する許可を得た。それ以来、ロシアから中国への食料品輸入が増加し続けている。2014年の穀物輸入量は17,900トン、76億3500万ドルであった。2015年には、24,000トン、102億2790万ドルの穀物がロシアから中国へ輸入された。2016年には54,200トン、210億6800万ドルに達した。2017年には、73,400トン、272億1930万ドル相当の食料品が満州里を通して中国に輸入された。2018年上半期には、ロシアから満州里の税関を経由して246億2630万ドル、65,400トンの穀物が輸出された。主に菜種、亜麻、小麦、オート麦、ソバ、ひまわりの種が満州里を通過して中国に輸出されている。満州里の税関地域には、ロシア産穀物を加工する企業、菜種加工会社ができ、小麦・オート麦・ソバの貯蔵庫が建設された。

綏芬河では、ロシアとの電子商取引が着実に発展している。そこには、ネット取引サービスを提供する700社以上の登録企業が存在する。これらの企業は主にロシア産品を中国に輸入している。ほとんどの取引は国際電子取引センターで行なわれる。2017年には21万個、総額15億9500万元の電子取引商品が綏芬河市を経由して輸入された。2018年の5か月間の取引額は62億5700万ドルとなった。「アリババ」社の研究センターの報告によると、綏芬河のネット取引は中国で18位の市場規模であり、黒龍江省内では1位である（〔8〕）。

中国とロシアは森林資源伐採分野で協力関係にある。ハバロフスク地方は、極東でトップの木材製品の生産地になった。極東連邦管区におけるシェアは 51%である。ハバロフスク地方において中国の取引相手の支援によって加工された木材の量は 2017 年に 15%から 40%へ増加した。

2018 年 7 月に、綏芬河では、ロシアとの国境地帯に 500 社以上の加工企業を統合する木材の加工と販売に関する中ロ国境センターの設立に関する合意が締結された。これは、沿海地方と国境を接する地域にある木材加工部門を発展させる刺激となった。このプロジェクトへの投資額は 1 億 5000 万元（2200 万ドル）である。木材加工貿易センターは、年間 250 万立方メートルの材木を生産する予定である（[9]）。

アムール州から中国への電力供給が増加しており、ハバロフスク地方、沿海地方、サハリン州における新しい石炭ターミナルの建設によって、石炭輸出が増加している。

極東を訪れる主な外国人観光客は中国人である。2015 年には、32.9 万人の中国人観光客（観光客全体の 70%）が沿海地方を訪れ、アムール州は 6.7 万人、ハバロフスク地方は 1.2 万人が訪れた。2017 年に沿海地方を訪れた中国人観光客数は 42.1 万人となった。

## 6. おわりに

ロシア極東と中国東北部の地域間協力の分析から、以下の結論が導かれる。20 世紀から 21 世紀にかけて中国東北部の生産の増加は、極東にある資源への需要の増大につながった。この結果、安定した地域間関係が構築され、1998 年と 2008 年の危機にもかかわらず、この関係は維持され、極東は新たにロシアにおいてエネルギー供給に特化した地域となった。

四半世紀の間、ロシア極東と中国東北部は互いに競争し、それぞれが独自の社会経済発展プログラムを実施してきた。形態や方法が変化しつつも、地域間の相互関係が従来のスキームに従って発展している。ロシア極東から中国へ資源が輸出され、中国からロシアへ高付加価値商品が輸出されている。中国企業は丸太、大豆、魚を購入するが、製材、肉、牛乳は購入しない。船舶修理分野における協力は進んでいない（[10]）。

「2009 年から 2018 年までのロシア極東と中国東北部の地域間協力プログラム」は 2018 年に終了した。このプログラムは、両国の地域の発展レベルを調和させることに失敗した。地域間協力が弾みがつくことはなく、全くと言っていいほど成果を残すことができなかった（[11]）。この協力関係にマイナスに作用する貿易収支不均衡は、ロシアの反政治勢力からは、地域間相互関係を中断させる議論の材料に使われている。

極東における中ロ協力の新たな可能性は以下と結びつくものとなる。

- 再生可能資源の利用拡大：沿海地方とサハリン州における養殖、ハバロフスク地方とザバイカル地方における木材加工の発展；
- アムール州（ブラゴヴェシチェンスクと黒河市）とユダヤ自治州（ニジュネレニンスコエと同江市）における橋梁の建設；
- ハバロフスク地方の大ウスリー島を含む国境インフラ、「プリモーリエ 1」・「プリモーリエ 2」の輸送回廊の発展；

- アムール州のガス輸送インフラ整備と「シベリアの力」ガスパイプラインの稼働；
- カムチャツカ地方と沿海地方における北極海航路の航行船舶向けサービス用の港湾の開発。

ロシアのプーチン大統領は 2018 年 3 月 1 日の連邦議会教書演説において、「ロシア極東を発展させる鍵の一つは北極海航路の発展である。北極海航路を通過する貨物量は 2025 年までに 10 倍の 8000 万トンに増加する」と述べた（[12]）。今日、国境地域で深刻な問題が起こっているが、木材産業や農地利用の分野における問題の解決に努力し、妥協点を見出す必要がある。第 18 回サンクトペテルブルク国際経済フォーラムにおいて、中国の李源潮国家副主席は「ロシアには広大な土地があり、中国には世界で最も勤勉な労働者がいる。これらの要素を組み合わせれば、我々は大きく発展できる。我々は相互利益とウィンウィンの関係という原則を順守しなければならない」と述べた（[13]）。

ポジティブな経験を敷衍することによって、着実な発展への道に抜け出し、最終的には中ロ間の友好・経済・文化関係の強化を促進する必要がある。中ロ地域間で互いに有益な関係の発展は、将来に向けた戦略的な方向である。中国の故事にあるように、「私たちそれぞれはより素早く進むことができるが、一緒になればさらに遠くへ行ける」。

#### 参考文献

- [1] Приграничная (прибрежная) торговля : [https://arb.ru/b2c/dictionary/prigranichnaya-pribrezhnaya-torgovlya--422434/?sphrase\\_id=444152](https://arb.ru/b2c/dictionary/prigranichnaya-pribrezhnaya-torgovlya--422434/?sphrase_id=444152). (「国境（沿岸）貿易」)
- [2] Л. Коломиец. *ДВ граница: от барьера к транзиту*. (「極東の国境：障壁からトランジットへ」)
- [3] А. Маслов. *Наблюдая за китайцами скрытые правила поведения*. Библиотека: e-reading.club. (「中国人の隠された行動原理を見つめる」)
- [4] Н. Антонова. Трансформация лесного комплекса за годы Российских реформ. «Пространственная экономика». №3, 2017. (「ロシアの改革期における木材産業の転換」)
- [5] Д. Изотов. Инвестиционное сотрудничество ДВ России с субглобальными экономическими структурами в условиях рецессии национальной экономики. «Пространственная экономика». №1, 2018. (「ロシアの経済停滞の状況下におけるサブ・グローバル構造と極東の投資協力」)
- [6] П. Минакир. В поисках пространственной гармонизации. «Пространственная экономика». №2, 2017. (「空間的な調和の探求」)
- [7] Biang 12.06.2018. 477. Губернатор Хэйлуңцзяна посетил ЕАО и Хабаровский край. <http://biang.ru/ru/politics/gubernator-xejlunczyyana-posetil-eao-i-xabarovskij-kraj.html>. (「黒龍江省省庁がユダヤ自治州とハバロフスク地方を訪問した」)
- [8] В Суйфеньхэ зарегистрировано более 700 компаний интернет-торговли. <http://biang.ru/ru/economics/>. (23.07.2018). (「綏芬河市に 700 社以上のネットビジネス企業が登録された」)

- [9] См. В Суйфэньхэ появится Китайско-российский центр по обработке древесины.  
<http://biang.ru/ru/economics/v-sujfenxe-poyavitsya-kitajsko-rossijskij-czentr-po-obrabotke-drevesinyi.html>. (21.07.2018). («中ロ木材加工センターが綏芬河に設立された」)
- [10] Л. Коломыц. Как повысить производительность труда на ДВ.  
<https://www.eastrussia.ru/material/trud-ne-vprok/> (23.08.2018). («極東の労働生産性をどのように改善するか」)
- [11] И. Зуенко. Почему Россия и Китай провалили Программу приграничного сотрудничества. <https://carnegie.ru/commentary/7708> (22.08.2018). («ロシアと中国はなぜ国際協力プログラムに失敗したか」)
- [12] Послание Президента РФ Федеральному Собранию 1 марта 2018 года. официальный сайт Администрации Президента России. <http://kremlin.ru/events/president/news/56957>. (2018年3月1日、ロシア連邦議会、大統領教書)
- [13] Дальний Восток будет большим рынком и войдет в новый блок Восточной Азии.  
«Электронное периодическое издание «Дебри-ДВ». <http://www.debri-dv.ru/article/9282>. (「極東は北東アジアで最大の市場になり、その新しいブロックに入る」)

А. Г. Брули  
極東商工会議所理事長、極東国際関係大学名誉教授

[ロシア語原稿を ERINA にて翻訳]